



宇佐市の県立歴史博物館で企画展「青銅の燦（きら）めき」が始まり、京都国立博物館が所蔵する、県内から出土した銅矛、銅剣 16 点が約 40 年ぶりに帰ってきました。

①40年ぶりに帰ってきた銅矛、銅剣は何時代のもので、どこから出土しましたか？

【宇佐】宇佐市高森の県立歴史博物館で6月30日から、企画展「青銅の燦めき」が始まった。京都国立博物館（京都市）が所蔵する、県内から出土した弥生時代の銅矛や銅剣約16点が約40年ぶりに帰ってきた。県内でも出土例が多い武器形、青銅器本来の色や魅力を紹介する。9月1日まで。全80点を展示。▽坊主山遺跡（臼杵市）から見つか

.....

②青銅器を化学的に見るコーナーでは、何ができますか？

坊主山遺跡から見つかった広形銅矛など80点を展示。宇佐市高森の県立歴史博物館



.....

③青銅は銅とスズの合金です。スズの含有量で色と硬さはどう変わりますか？

.....

④銅矛や銅剣など青銅は、何に使われていたと考えられますか？

.....

弥生時代の銅矛、銅剣 40年ぶり16点帰郷

宇佐、県立博物館で企画展

つた広形銅矛（長さ約90センチ）7本▽浜遺跡（大分市）で水田化の工事中に発見された中細形銅剣（長さ約40センチ）▽清水ヶ迫（同市）で開墾中に出土した平形銅剣（長さ約40センチ）など。いずれも聞き取り調査をしたが、見つかった当時の状況は分からないという。県内の博物館や神社などで保管していた銅矛や銅剣などもある。

子ども向けに、青銅器を化学的に見るコーナーもある。県立歴史博物館によると、青銅の色や硬さはスズの含有量で異なる。スズが少ないと金色で軟らかくバネがあり、多いと銀色で硬く折れにくくなる。本来、金色や銀色に輝いていた銅剣の模造品などを飾り、制作当時の色を見せよう。同館企画普及課主任研究員の越智淳平さん（38）は

「青銅は現在も硬貨やメダルなど身近に使われている。武器や祭事の道具として重宝された当時の姿を知ってほしい」と話した。午前9時から午後5時まで（入館は同4時半まで）。大人310円、高校・大学生は160円、中学生以下は無料。問い合わせは同館（☎0978・37・2100）。（藤本昌平）